

1 研究テーマ

「個に応じた自立活動の視点をふまえた学習指導の在り方」

2 テーマ設定の理由

平成23年度から3年間、「児童生徒の教育的ニーズをふまえた自立活動の指導」を研究テーマに取り組んできた。3年間の研究の経過からより効果的な「自立活動の視点を取り入れた授業づくり」「教材教具・支援具についての研修」をさらに深めて研修することの必要性があがった。

自立活動の視点をふまえた効果的な指導を進めるには、実態把握（A）→計画（P）→実施（D）→評価（C）→改善（A）というマネジメントサイクルに基づく授業改善が大切である。とりわけ、特別支援学校の児童生徒には、実態把握（A）が重要である。個々の障害の状態を6区分の自立活動の視点を持ってより正確な実態把握をすることで、個に応じた指導をいっそう効果的に行うことができる。

重複障害学級の教育課程を変更し、自立活動主のⅢ類型における自立活動の授業内容づくりや指導方法などについての研修をさらに深めていかなければならない。

そこで、平成26年度から「個に応じた自立活動の視点をふまえた学習指導の在り方」を研究テーマにすえ、今年度は2年目の研究主題「各教科等・自立活動における目標設定について」の実践研究を進めていく。

3 研究主題

研究は3年間で行う。

- 1年目（平成26年度）…各教科等・自立活動における実態把握について
- 2年目（平成27年度）…各教科等・自立活動における目標設定について
- 3年目（平成28年度）…各教科等・自立活動の視点をふまえた授業評価について

4 研究の方法

○授業改善に向けた取り組み

- (1) 校内全体研修会（6月）
 - ①外部講師による研究テーマに沿った内容の研修会を実施する。
- (2) 校内授業研究会（7月）
 - ①公開授業研究会に向けて、外部から指導助言者を招いて研究授業を実施し、各学部で研究協議を行う。
- (3) 公開授業研究会（9月25日）
 - ①小学部、中学部、高等部から各学部一授業、公開研究授業を行う。
 - ②外部から指導助言者を招いて、各学部で研究協議会を行う。
 - ③外部講師による研究テーマに沿った内容の講演会を実施する。
- (4) 教材教具・支援具についての研修会（8月と12月）
 - ①教材教具・支援具について各学部で年2回の研修会を実施し、各学部で一人1回発表する。
 - ②公開授業研究会で教材教具・支援具を展示する。
- (5) 自立活動の視点をふまえた実態把握と目標設定
 - ①自立活動の視点をふまえた実態把握を基に、的確な目標設定をした授業づくりをすすめる。
 - ②Ⅲ類型の自立活動の内容作りや指導方法について研修する。
 - ③肢体不自由児の特性をふまえた・マネジメントサイクルに基づいた教材教具・支援具を作製し、授業で活かす。

○専門性の向上に向けた取り組み(自立活動)

- (1) 外部講師、内部講師による、自立活動に関する研修会を行う。
- (2) OT、PT等、外部専門家等と連携し、児童生徒の実態把握に関する研修会を行う。
今年度OT、PT等と連携した内容を「自立活動内容表」に追記し活かす。

<教育研究部>

<自立活動部>

